

# 学生リーグ戦の思い出



亜細亜大学空手道部 監督

## 山本 哲夫

昭和 52 年の春にはじめて訪れたはずの日本空手協会は、なぜか懐かしい、デジャヴを見ているようでした。リーグ戦の試合の為に、恵比寿にある総本部道場に入った私は、床板に残っている三角のマークと低く感じる天井、一段高くなっている観客席を覚えていました。そこは昔ボーリング場だったのです。

小学生のころ、総本部道場の前にあるそろばん塾へ「出稽古」に来て、練習の後先生がボーリングをさせてくれたのでした。まさか、大学生になって空手の試合にそこへ再び訪れることになろうとは思ってもみませんでした。

しわがれ声の角刈りの先生が出欠をとっており、その方は今思えば大坂先生でした。

試合のことはあまり覚えていないのですが、それだけは印象に残っています。

正直なところ、他の試合もあまりよく覚えていないのです。どこの大学と試合をして、勝ったとか負けたとか思い出せません。一つだけ思い出すのは 4 年生の時に全国大会の団体組手大学の部で 3 回戦ぐらいで防衛大学に負けたことです。

その時も「負けて悔しい」という思いよりも「まだまだ足りない」と思ったものでした。

恩師の杉浦先生からも、試合に出て勝ち負けにこだわるよりも「永く空手を続けなさい」と教えていただきました。

私が思うに強い人というのは、他の人と競うのも大事ですが、強くなりたいと常に自分を磨き続ける人ではないかと思えます。

継続は力なりという言葉も有りますが、どんなに才能がある人でも努力することを怠っては、その技術もすぐに錆びついてしまいます。ですから、大学生の皆さんも 4 年間の空手で終わらせず、卒業されてからも稽古場所を見つけて、自分を磨き続けてほしいと思えます。

大学 OB 連合会では合同稽古や資格審査会などを企画しておりますので、そこで審判資格を取得してこのリーグ戦にもどってきてください。

つたない話になりましたがこの伝統ある大会の盛會を祈念して終わりにしたいと思えます。

押忍